

第3回瑞浪市道の駅検討委員会

<議事要旨>

日時：令和3年4月15日（木）午後2時30分～

場所：釜戸コミュニティーセンター 多目的ホール

出席委員：東恵理子、足立美樹、足立亘、伊藤加代子、落合宏之、出村嘉史、橋本孝晴、
原田守啓、平尾巖、水野吉衛、水野正、溝口純司
(五十音順、敬称略)

欠席委員：金津誉、小木曾実希（敬称略）

アドバイザー：岐阜県東濃県事務所長 尾関 新太郎、岐阜県多治見土木事務所長 小野
弘康（敬称略）（欠席）

オブザーバー：国土交通省中部地方整備局多治見砂防国道事務所 計画課長 野村 博
(敬称略)（代理出席）

事務局：瑞浪市 建設部 都市計画課

■会議概要

(※議事要旨の発言者は、学識経験者の原田会長・出村委員のみ表示)

1. 開会

2. 会長あいさつ

会 長 今年度も引き続き、本検討委員会の会長を務めさせていただきます。新型コロナウイルス感染拡大の影響等により先が見通せない世の中ではありますが、この検討会で議論している内容というのは、2026年、2027年を見越して、今できることをやっという非常に前向きな計画になっています。コロナ禍でマスクをしている状況もいずれ終わり、もっといろいろな活動ができるような世の中が戻ってくると思いますので、ぜひ未来志向で今日の議論も進めていければと思っております。

3. 議事

会 長 次第のとおり、本日は2つの議事と追加された「その他」というパートがあります。議事の円滑な進行にご協力いただきたいと思います。議事の中に皆様との意見交換や質問の時間を設けますので、早速議事に入らせていただこうと思います。一つ目の議事としまして、「瑞浪市道の駅基本計画骨子（案）について」ということで、事務局から説明をお願いいたします。

(1) 瑞浪市道の駅基本計画骨子(案)について

・事務局より資料1の説明を行った。

会 長 皆様のお手元の基本計画骨子(案)について、まだ記載されていない部分もありますが、特に平面的な計画・導線については、国土交通省の道路事業との兼ね合いにより協議事項が残っているということで、その点については「その他」のところ現状について、事務局からお話しいただけると聞いております。皆さんに少し思い出していただきたいですが、基本計画の前に「道の駅基本構想」というかなり力を入れて整備したものがあまして、基本的には「道の駅基本構想」を踏襲したものになるだろうと予想しております。それでは、事務局から示された基本計画骨子(案)につきまして、議論できればと思います。ご意見ご質問等ありましたら、挙手にてお願いいたします。

委 員 基本構想があつて基本計画、そして実施計画に入っていくという形になるかと思ひます。資料の4ページに「暮らし」や「賑わい」とありますが、具体的にどの程度まで事業として掲げていくのか、どこまでこの計画に位置づけられていくのかという部分について、どのように考えているのかを教えてください。仮にこのままであれば基本構想と同じであつて、災害時の安全性の確保という点であれば避難施設、備蓄倉庫、エネルギーはどうなのか。水力であるとか太陽光であるとか、そういった部分はどうか。道路利用者また地域の皆さんがここへ訪れる、そういった事業を掲げていくのかどうか、どこまで掲げていくのかというのを伺ひしたい。

もう一点、既存資源の活用について、既存資源というのは竜吟峽などだけではなく、まだこの地域に眠っている資源というのは調査をされるのかされないのか、それを利用するという事は考えてみえるのかというのを伺ひしたいです。

会 長 この基本計画でどこまで具体化するのかということと、資源の掘り起こしについて事務局からお願いします。

事 務 局 現段階では、例えば、備蓄については防災部局との具体的な協議がなされている状況ではありません。今後、防災部局との調整をしながら具体的な計画にしていきたいと思ひます。また、地域資源の掘り起こしという点については、基本構想の段階でかなり丁寧に掘り起こしをしたところではありますが、まだ十分な掘り起こしができている状況ではありません。今後も、様々な掘り起こしをしながら、より良い計画にしていきたいと思ひます。

- 委員 基本計画には、防災施設、備蓄倉庫、そして仮に道路利用者等の避難所ということであるなら、そこでエネルギーを作って、そこへ避難できるとか、そういった部分についてもこの計画の中に入れていくということですか。
- 事務局 防災という観点から重要であると思いますので、今後詳細に決めていきたいと考えております。現段階の基本計画の中では、大筋としての考え方を網羅している状況となります。
- 委員 この基本計画では具体的な事業を掲げないということでしょうか。どこまでのものを、この基本計画にあげていくのかということを確認したいです。
- 事務局 現状は、基本計画骨子（案）記載の内容が基本となります。基本計画に関連して、施設の規模等を算出した時の根拠数値等を報告書として作る予定であり、具体的な内容等については可能であれば示していきたいと考えております。
- 委員 分かりました。
- 会長 検討委員会の前身の構想を立てている段階から最も重視してきたのは、基本計画の10ページにロードマップが載っており、ロードマップの下の方に運営体制とあります。これほどまでに、誰がどう関わるのかということを中心に検討してきた道の駅というのは、正直、他にはないのではないかと思います。どういう方がプレイヤーになって、どのように活躍していただけるのかといった点に時間を割いてきたところです。決して計画の熟度や詰めが不十分ということではなく、優先順位で防災の議論が後回しとなっていると言いませんけれど、今まで我々も丁寧に議論してこなかったという部分もございますので、今後、基本計画の後に詰めていくべきものではないかと考えております。
- 会長 他いかがでしょうか。
私の方から経緯も含めて確認したいのですが、この基本計画が公表されたときに、市民の皆さんが一番気になるのが、おそらく具体的な導入機能として、どういうものがここにできるのかということだと思います。5ページ、6ページにそれぞれの導入機能・規模が記載してありますが、どういう経緯で決まり、どういう検討の結果こうなったのかということについては、もう少し書き込んで良いのかなと思います。その点いかがでしょうか。

事務局 例えば、5 ページの一番上にある「よろずや」は地域のアンケートなどを踏まえ、釜戸地域に何が必要なのかという検討をする中で出てきました。もう少し詳細に、どういった経緯の中で出てきたのかという記載をしたいと考えております。また、6 ページの内容については、どちらかという釜戸ベースの皆様から色々な意見をいただき、この地域に何が必要か、何が望まれているのかというあたりを掘り起こし、自然とのふれあいなどのアイデアが出てきたので、このような形で記載させていただいております。先ほど水野（正）委員からご指摘があったように、これからどういう形で整備できるのか、どのようなニーズがあるのかというあたりにつきましても、さらに調査していく必要があると考えています。

会長 基本構想から基本計画の間でどういう議論があって、こういったものになったかという経緯とか理由みたいなものを、この計画を見られた市民の方が納得いく形で、なるほどというふうに読んでいただけるように、情報だけではなくて、何故こうなったのかという経緯について、もう少し補足していただいた方が良いのではないのかなということでございます。

事務局 分かりました。

会長 他いかがでしょうか。

出村委員 原田先生が議論されたことと似ているかもしれませんが、この計画が公表され、皆さんに読まれることを前提とした時に、長期間をしっかりとルールの上に描いて、動的に物事が決まっていってというスタンスの計画は今風ではありながら、なかなか無いと思います。そういうことを考えると、今までのような計画書の読み方をしないでくださいという但し書きが絶対に必要だと思います。つまり、基本計画っていうのは、全てを今決めないという宣言が絶対に必要な部分であり、そこには強い意志があって、なぜならという議論が大分されたと思います。その部分を3、4ページかけて考え方を改めて読んでくださいと言う部分を作らなければ、この計画が普通に読まれたときに文法が違うので、何もやってないのではないかと読まれたら凄く損してしまう。その点を、委員が指摘されて、その通りだと思っています。

事務局 ご指摘の点を踏まえ、基本計画の内容を検討したいと思いますので、よろしくお願いたします。

会 長 他いかがでしょうか。

委 員 今の話と同じになるのですが、必要な機能について、マーケティング調査をした上で必要と考えられたのかなと凄く疑問に思います。例えば、グランピングと書いてありますが、もちろん風景から考えたら良いかもしれないですが、どのあたりの商圈の方が、何人ぐらい釜戸町のグランピングに来たいと思っているのか、ターゲットみたいなものが全然見えません。仮説を立て、調査をして、その数字から判断されて機能を入れたのか、そのあたりを伺えればと思います。

会 長 事務局から、答えられる範囲でお願いします。

事 務 局 グランピングという部分については、6ページのグランピングの左欄に書いてありますが、既存施設の活用ということで、マーケティングというより、この場所のポテンシャルを活かすにはどうしたら良いかという視点で出しております。これは先ほどから議論となっている釜戸ベースあるいはこの委員会などで出てきた導入機能の中から、どうやったら活かせるかという点で拾い上げているところがあります。これをベースに、遠方からも近くからも来てもらえる施設をどう造るのかという細かいレビューは、今後詰めていく形を考えています。

会 長 グランピングに関してはそうかもしれませんが、他の項目については緻密に検討されたものもあれば、提案ベースで入っているものもあって、たしか混在しているような気がするのですが、いかがでしょうか。

事 務 局 はい、そうです。

会 長 どれが道の駅の機能として必要としてあがってきたもので、どれが提案ベースのものかを整理して説明することはできますか。

事 務 局 お手元の5ページ目の資料、導入機能という欄の左側に導入機能の基本方針を記載しています。その中の「よろずや」、「トイレ」という部分については、日常の買い物といった部分で「よろずや」を支援しますし、「トイレ」については、道路利用者の利便性確保というところで拾い上げています。その下の情報施設、休憩所あるいは駐車場についても交通利便性の確保ということで導入規模の左に書いている大項目が元々抽出した理由になります。その下の備

蓄倉庫については、先程より議論となっている防災の観点から出てきています。芝生広場につきましては、多様な楽しみ方の創出という中で、釜戸地区の住民が楽しめるというところを出している機能となります。続きまして、6ページの機能というのは大半の部分が釜戸地区から賑わいを作り出すというところで、目的化施設にして遠方から人を呼ぶということです。先ず、グランピング施設と親水広場については、この計画地のポテンシャルを活かすという意味で、既存施設をいかに活用するかという視点で出てきております。その下の飲食施設と特産物販売施設につきましては、釜戸地区の個性の発揮というところで、遠方から目的化施設に来ていただいたときに、どんな形で釜戸地区を理解していただくのかという点で、アピールできるものとしまして、ショップあるいは地元の農作物、そういったものを活用できるのではないかなという形であげております。その下のイベント広場につきましては、一足飛びに目的化施設にするというのはなかなか難しいので、どのように人を集めるのかというところで、これまで釜戸ベースで議論してきた中では、この地区としては沢山のイベント開催をしており、これをキラーコンテンツとして人を呼び込んでいくという考えを示しております。人を呼び込む中で、色々な店舗等を出店し、その中で人気が出たような店舗については更に精度を深めて、この地区内に店舗ごとハード的に整備し、徐々に展開していくというような形で、まちと共に成長していくということを考えているというところです。

会 長 私の方から補足させていただくと、第2回検討委員会の時に、民間企業へヒアリングされて、「よろずや」として成り立つとしたらどれくらいだとか、かなり詳細にバックグラウンドのデータは詰められている部分もあるし、きちんと規模の検討としては根拠がないものがあるかもしれません。

委 員 話をお聞きしていて、釜戸ベースで意見が出たからといって釜戸ベースに丸投げというのは一番困るなというのを感じています。もちろん、釜戸ベースから潜在的にポテンシャルがあるといった意見もあったと思いますが、釜戸ベースというのは基本的には素人集団であって、専門家の方が、観光または商業の視点から客観的な判断をしてほしいと思います。住民から出たことというのは主観的なので、それを助けていただきたいです。調査を行い、本当にそうなんだから納得して機能を取り入れるっていうところがあったら良いなと感じました。

委 員 道の駅全国一斉アンケート、これは特定非営利法人の「元気な日本を創る会」というところが出している資料ですが、東美濃地域で、道の駅そばの里「らっ

せい三郷」が年間 63 万人、「おばあちゃん市」が年間 56 万人、「志野・織部」が 54 万人、「どんぶり会館」が 52 万人となっています。「きなあつ瑞浪」だと 49 万人から 50 万人位、年間の集客がありますので、こういった施設を参考に計画を策定されていると私は解釈しています。そういう中で、今、コンビニなどは大型トラック等を駐車するスペースを郊外でとっているというのは防犯上の観点からそういった整備をしています。また、色々調べた中で、キャンピングカーで旅行に行かれる方が多い現状がありますので、キャンピングカーが駐車できるような設置スペースまた電源があれば良いと思います。今は、料金を払ってでも駐車したいというキャンピングカー等があると思います。私が住んでいる可児市に「Toy-Factory」という全国でも指折りのキャンピングカーを作っている会社がありますが、商工会議所では、そことタイアップして、そういう施設をつくったらどうかということ、多治見、土岐、瑞浪、恵那、中津川と可児を含めた 6 市で今、検討しているような状況もありますので、そういった点も参考にすると良いではないかと思えます。

会 長 委員からの、提案をそのまま入れるだけではなくて、市の方でもある程度きちんと裏付けをとるなどの応援をして欲しいという話と、委員の 2 つの話についてお願いします。

事 務 局 委員の色々なコンテンツを総花的に入れて本当に大丈夫かというご意見については、次の議題 2 でそういったコンテンツをどのように運営していくのか等のご議論をいただき、事務局ではこういったことを考えていますということをご説明させていただきたいと思っております。

委員からいただいた RV については、釜戸ベースの皆様からも、そういうご意見がかなり強く出ています。実現できるかどうかはありますが、色々な検討をしていきたいという意味で、RV パークも入れさせていただいております。今後、基本計画の中に位置づけたからといって、完全に実現できるかは別として、前向きに議論できるような体制にしていきたいと考えています。

会 長 5 ページ、6 ページの内容がどうやって出てきたのかという点について、読んだ人が総花的に詰め込んでいるだけではないかと読まれかねないです。実際は、非常に厳選して丁寧に議論されて、あの空間にどのように機能を配置するかということも丁寧に検討しながらやっています。これだけを読むと、やはり一昔前の箱物を造って、何でもみんな詰め込んでしまえみたいに使われてしまうので、そうならないように説明の仕方というものを工夫していただくと良いではないかと思えます。この後の 2 番目の議事でも具体的な内容の説明

があるようですので、時間の関係から2番目の議事に入らせていただき、一つ目の計画の骨子についても、引き続き2号議案の時に追加のご質問等あればいただきたいと思います。

会 長 それでは、2番目の議事といたしまして、道の駅の整備・運営方針につきまして、事務局から説明をお願いいたします。

(2) 道の駅の整備・運営方針について

・事務局より資料2の説明を行った。

会 長 説明いただいたのは1号議案の基本計画骨子(案)のうち、道の駅の整備・運営方針の中で検討することが外出しになっているという議論になりますが、こういった検討に基づいて先程の導入機能の検討も並行になされているわけで、しっかりと説明していただければトータルで検討しているということが分かるのではないかと思います。

只今の説明につきまして、ご意見ご質問等ありましたらお願いいたします。質問が出る前に私の方から確認したいのですが、今回、基本計画への載せ方としては、こういった検討をして、この中からいずれかいくつかの誘導選択肢を、どのように検討していったら、これからこの内のどれかで具体化していく方向であるという、選択肢として示すような載せ方を想定されているという理解でよろしかったでしょうか。

事 務 局 はい、そうです。

会 長 ということですので、我々がこの場で決めるというよりは、こういった検討をしているよということを基本計画に載せていくということで事務局の方では検討されているということです。これについて、この資料の内容ですとか、基本計画の中での取り扱いについて、ご意見ご質問等いただければと思います。

委 員 まだ先の話になると思いますが、やはり運営事業者が一番重要だと思います。先程の資料で、私も昨年調べたアンケートの中に、全国では第三セクターでやっているのが28.5%、民間企業へ委託しているのが18.3%、財団法人等の団体組織へ委託しているのが10.6%となっています。全国には、JAさんがやっているところとか、商工会議所とか商工会がやっているところもあり、開設当初は自治体が運営し、数年経過後から民間への委託を検討するパターンも数多くあるようです。指定管理制度が定着していますので、自治体自身が運営に携わるよりも民間業者へ指定管理で委託したほうが良いのではないかと思います。

ースもあるようです。そういうことも踏まえて、最終的にどういった事業主体としていくのかというところが、重要だと思います。いつまでも行政から補助金がでるわけではないので、独立したしっかりとした経営母体をつくらないと継続ができないと思いますので、そういった点を踏まえて検討していただきたいです。

事務局 先程、事務局が説明した中で「よろずや」というのが出てきました。この「よろずや」というのが一つのキーワードとなっております。ここで収益が得られないとほかの展開ができませんので、ここで収益をしっかり得ながら、その他のコンテンツも運営できる体制をどのようにつくっていくのかというのが、道の駅運営方針の核になってくると思っております。そういう意味では、民間企業等のご意見を聞きますと、「よろずや」は成立するだろうというご意見もいただいておりますので、ここをベースにしながら、色々な展開を考えていきたいと思っております。

事務局 補足ですが、今回の道の駅というのはリスクをあまりとらないというところで、マーケティングの中で確実にできる「よろずや」を先行させて、この後にどんどん機能を増やしていくということを考えています。計画に導入機能を全部書いていますが、一気に整備するっていう形ではなく、随時増やしていく、集客あるいは経営の観点からいっても、一気に全部つくるのではなく、段階的に整備していくのは、かなり向くのかなと思っております。今後、運用面でまだ具体化していかなければいけないところが多いということです。

委員 資料の施設の運営イメージの開駅当初の運営体制、ここで釜戸ベースが運営組織の母体で、連携してこの地域主体の運営組織という形があります。この運営組織の母体というのは釜戸ベースが主として動いて、その中に地域が入っていくという、そういう形のことをイメージしてみえるのかを教えてください。

事務局 この資料で書いている釜戸ベースと現在活動されている釜戸ベースが一致する場合もあるでしょうし、決して一致というわけではなく、ここで言っている釜戸ベースは地域が主体となる運営組織をこれからつくっていききたいという意味で、その単語として釜戸ベースという単語を使っているということです。現在の組織と完全に一致しているわけではないという理解をしています。

- 会 長 クローズなものとして捉えているわけではない、釜戸の地域の方々が主体となるような運営組織にしたいという理解で良いですか。
- 事 務 局 ただ、釜戸ベースの皆さんが主体となっていくことは期待しています。
- 会 長 アジャイル型展開という記載は分かりにくいと思うので、もう少し軽易な言葉を使っていただいた方が良いのかなと思います。アジャイルについて説明をお願いします。
- 事 務 局 確定した上で物事を決めるのではなくて、色々なトライ&エラーをしながら、あるべき姿を見定めながら動いていくという形をアジャイル型ということで、そういう表現をさせていただいております。
- 出村委員 アジャイルというのはシステム開発の用語で、逆バージョンがウォーターフォールになります。上からなのか下からなのか、簡単に言うとそういうことです。つまり、全部決めた上で細部を落としていくっていう、いわゆる今までの計画の立て方っていうのが馴染みだし、私も計画論はそういうものだとして学校で教えていますが、アジャイルはそれとは逆に、ちょっと小さな試しをやってみて、それをよく観察して、少しバージョンアップしてという、展開をしていくのがアジャイルです。道の駅をつくっていく時にアジャイルでやりましようと言ったら、「何を馬鹿な」って普通は言うと思います。けれど、それを既存の方法の中にできるだけ民意を入れていきながら、少しずつ成長させてっていうのができる、この道の駅は期間が10年スパンであるっていう話だったというところから、それをやる余地があります。逆に言うと、こういう計画ベースのところっていうのは、そもそも資源として、あまり世の中にはないので、そういう中で良い試みができて、しかも計画論をやる人はアジャイルの方が良いに決まっていることは皆知っているんです。それをやるチャンスがなかなか無いっていうだけの話であって、ここは是非ともその点をしっかりと冒頭に謳って、普通ではないやり方で、より豊かなものをつくらうとしているという認識を持った方が良いということを今日の議論を聞いていて思いました。アジャイルは新しい概念なので、それを普及した方が良いのですが、必ず「アジャイルとは」ということを但し書きで入れた方が良いと思います。
- 会 長 「まちと ともに 育つ 道の駅」というコンセプトを基本構想の時に採用したわけですが、まさにこういうことです。最初から全部整えるのではなく、やりながら少しずつ関わる人も色々なノウハウで成長するし、場所も段々育って

いくつという、元々そういうコンセプトだったと思います。ただ、いずれにせよ、アジャイルという言葉は分かりにくいので、できれば他の言葉に置き換えることも検討した方が良いのではと思います。

委員 釜戸における道の駅整備の一番大事にしていきたいところというか、今の釜戸ベースが動きを付けて、将来的な担い手になってもらいたいという位置付けの中で動いているということは、まさにアジャイルかと思います。それから、この委員会が構想から基本計画になって、実施計画になって実現するという過程の中で、もう決めたことは動かさないみたいな、それは行政が事を決めていくときに避けられないことではあると思いますが、その過程の中で案が出てきたときに、それはもう決めちゃったからという発想でものを考えないで、如何に出てきた新しいアイデアを、そこに活かしていくかという考えを持ってもらえると良いと思います。今日も新しい話が出ておりますので、そういうものを可能性はもちろん判断する必要はあると思いますが、実施に向けて、どう取り入れていくかっていう発想も持ってやっていただきたいなと思っています。

会長 事務局の方からいかがでしょうか。

事務局 ありがとうございます。今回の道の駅検討委員会を進める中で、両先生に願いまする時に、既存の道の駅がかなり衰退している所もある、そういう中で、これから瑞浪市が、そんな状況の中で道の駅をつくるのかという話がありました。今、発展しているというか、人が入っている道の駅というのは、おっしゃられたとおりです。最初に出来上がった姿が少しずつ変わってきて、その地域のニーズに合った変化をしている道の駅が現在も生き残っていると思っています。そういう意味で、抽象的な表現もあったり、イメージと違ったところもあるかもしれませんが、まちとともに育つ道の駅、地域の資源を掘り起こしつつ、少しずつ変化をしながら、地域ニーズであったり、道路利用者のニーズに合った道の駅にしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

会長 ありがとうございます。議事としてはこの2号議事までで、ご意見いただけるところについては、できるだけ事務局にインプットしておいた方が、次回見ることになる完成版に近いものにきちんと反映していただけたと思います。ご意見、感想でも結構ですので、是非ご発言の方、よろしくお願いいたします。

委員 先程、委員もおっしゃっていましたが、町民の方たちが意見を出し合って、地

元に根付いた母体をつくっていただくことはとても良いことだとは思いますが、そこに、専門家の意見を取り入れながら、やっていただけたらと思っております。きなあつ瑞浪も2年後にはバーベキュー場もできますので、RVにしても、釜戸の方との連携であったり、そういうものがどういう形で出てくるのかなと期待しています。先程から先生方もおっしゃっていますが、新しい形、本当にどういう形が新しいのかというのは、なかなか難しいですが、動きながら、そして他の所ではやっていない、ちょっと考えられないというようなことが出てくると良いなと思っております。ぜひ、地元の方だけの意見だけではなく、少し他の意見も聞きながら、進めていただけたら良いなと思っております。

委員 色々考える中で、「よろずや」について、先程のアジャイル型展開ということですが、先ほどのデータの中で、16万人という商圏ではなかなかリスクが高いということがあるわけです。そうになると、これから民間が主体となってやっていくことになると思いますが、このリスクをどうやってカバーするのかなと一つ考えました。2つ目は、グランピングで、道の駅の中でキャンピングカーなどが来て、乗り入れも含めてですけど、道の駅に駐まっていたら、釜戸とか大湫とか、そういう周辺の史跡、自然そういったものを楽しんでいただいて、リピートが増える形になれば良いのかなと思っております。温泉についても、釜戸の温泉は良い温泉です、白狐温泉は今までずっと観光地で、湯治客も来た歴史もあります。道の駅に駐まっていたら、白狐温泉、釜戸温泉そういった所で泊まっていたら、宿泊施設もあると思うんですけど、そういうふうになれば良いなと感じております。

委員 個別に進めていくというのは非常に良いことだと思います。「よろずや」的なところからスタートするというのでしたけれども、コンビニを誘致しようと思うと、先程の資料にもありましたが、日販50万円から60万円位の売り上げが必要になります。そうすると、一日の来店客は1000人弱くらいを想定しないといけない中で、この釜戸の暮らしを支えるというコンセプトだけでは厳しいと思います。当然外部から入っていただかないと難しいという中で、恵那市でも道の駅の話があるということを知っておりますので、恵那市がどういう形で進めているのかも踏まえて、検討していく必要があるのではと感じました。

委員 今までの検討委員会で話したことが、しっかりと落とされていて大変ありがたいなと考えています。ただ、今日、私は全くの素人ですので、一番初めに説

明を受けた上下分離型の下り配置の考え方というのがどういうことをいっているのか全然分からないので、これを説明いただきたいと思います。

会 長 「その他」のところでは平面的な絵の話はしていただけますね。

事務局 はい、ご説明させていただこうと考えています。

会 長 委員のご質問はその他のところで説明いただけるということなので、後ほど説明をお願いします。

委 員 自分の同世代や後輩たちも含めて釜戸に残っている人が少ない現状で、もう少し自分たちの周りの同世代が主力で活躍していかないと、道の駅開設に向けて盛り上がった中で、盛り上がってそこがピークを迎えたら、この先が心配になってきます。釜戸ベースでも、もっと何年かのサイクルの仕組みをつくる必要があるなと思いますし、釜戸町民はこの道の駅にとっても可能性を感じているので、もう少し自分も含めて、もっと仲間を巻き込んでいきたいなと感じました。

委 員 私は釜戸ベースに入っていますが、釜戸ベースというのは、そもそも釜戸の地域活性化を目的として、道の駅を地域と結ぶプラットフォームとして、様々な使い方、事業を生み出すっていう組織です。釜戸ベースのコンセプトとしては絶対に否定はしない、どんな話もできないとか、やれないだろうっていうこと言わないっていうのが釜戸ベースです。今、チャレンジチームとして、ジェラート開発やクラフトビールはもうできていますが、野外フェス、イベントサポート、パークラン、RVパークなど色々な案が出ています。やはりプロの方の意見で、これはできるこれはできないっていう冷静な判断をしていただきたいなと思います。釜戸ベースでは、今までと同様に、夢を語ったり、色々なことをやってみて、こういうふうにできたら良いんじゃないかっていう事をやっていきたいと思いますので、よろしくをお願いします。

出村委員 組織の話が先程から議論になっていますが、A3 資料の方針3 開駅当初の運営体制について、この図の見方が皆さんバラバラな気がするので確認をしたいです。ここで釜戸ベースが上にあって、運営組織の母体って書いてあるので、いかにもそれが統率しているように見えますが、よく見ると二つを結んで矢印に連携って書いてあるんですね。その下方の色味掛った方の四角が地域主体の運営組織となっていますが、私が思ったのは、瑞浪市が指定する側のこ

の黄色い色味掛ったところが、株式会社か有限会社か、とにかく責任の所在をはっきりとさせている組織でなければならないと思います。今、これが釜戸ベースだという議論になりかけていたけれども、私はそうは思っていないです。そこが色々なアイデアの厳選とか、実際にトライアンドエラーを横でやっている釜戸ベースと連携して、色々な事を汲み取っていくっていうそういう形なんじゃないのかなと思っています。そう読めますけど、四角のタイトルの地域主体の運営組織が混乱を招いているのかなと思いました。できれば、この黄色い部分が色々な部分を含み込むのではなくて、可能な限りスリムにして、論理コースというか SPC みたいな状態にする。今の話だと公的な営利が多いので、地面とか空間については公がかなりの度合いで面倒を見ざるをえないのかなと思います。運営母体としては、初期費用が何億円とかかかると、それを回収するために相当な信用力を付けないといけないわけですが、初期費用が公でかなり出ているとしたら、その組織がかけるべきは次の展開に対するランニングコストになります。そういう意味でここを非常に安全に保っておけば、あとはもっと積極的な取り組みが可能じゃないかなと、そういう組織のつくり方なのかなと思っています。

会 長 今、釜戸ベースと地域主体の運営組織との関係性の話と、この正規のイニシャルコストを誰が持つべきかという話が混同しているので分けていいですか。実は、私も出村先生がおっしゃっていた部分に関して、若干違和感というか誤解されかねない部分ではないかなとこのがあります。あたかも釜戸ベースが上に見えてしまうので、色々な軋轢を生みかねないのですが、釜戸ベースというのは、アイデアとかチャレンジの母体であって、実際に法人化して、何かをやっていくのは地域主体の運営組織になります。上下をひっくり返すだけでも随分印象は違うと思いますので、そういうふうにしていただけると、より釜戸ベースの方々も、もっと自由なチャレンジをしていただけたと思います。ただ、実際には釜戸ベースで活動していただく方の中から、運営組織の方へ加わってくる方々もおられるだろうということを期待して、こういう図になっているということですね。あと、整備主体というのは、どこまでお金を出すかというところは当然、運営組織が借金を抱えてスタートするのか、フリーハンドでスタートできるのかっていうことで大きく変わってきます。これに関しては、市としてプレイヤーの方々が動きやすいように、できるだけご配慮いただくということかなと思います。今、概ね皆様からご意見をいただきましたけれども、他にご意見等ありましたお願いします。

委 員 釜戸町は人口が減少し、高齢化が進んでいます。地域の色々な組織は、なかなか

か減ることなく、現状ずっと同じ状況できている。これは釜戸町だけではなく大湫町も同じ形です。地域の住民にとって、高齢化でそういったものが重荷になっているのは確かで、そういった中でまちづくり組織が地域の主体となって地域の活動を行っています。そういった組織も、これから高齢化が進んで人を集めて活動するのは大変になってきます。既に大湫町は一千万円、釜戸町は二千万円から三千万円位の指定管理料を市から受けているわけです。この地域の運営主体ということで、新しく組織ができると、また同じような人が入ってくる、複数兼務をしなければならなくなります。であるなら、全体のことを考えてもらえる運営検討というのがなされると良いかなと思います。それだけの事業を行っているということは、既にそれだけの人材を雇うことができる形になるわけですから、そういったところも含めて、道の駅整備・運営方針の検討の中の運営主体・運営体制の中に入れていただけるとありがたいなという思いがあります。

会 長 これはどなたにお答えいただくのが良いのでしょうか。

委 員 まちづくりの関係は市民協働課になりますが、市の中でそういった部分も道の駅の運営体制を検討するときに、一緒に検討してもらえれば大変ありがたいと思います。また、まちづくり推進協議会の法人化について検討したことがあります。その時に一番良かったのは株式会社でした。

事 務 局 ご指摘ありがとうございます。大湫町や釜戸町だけではなく、各地区でそのような話を承っております。今回は、釜戸町内に計画する瑞浪市道の駅ということですので、この道の駅がしっかり運営できるような体制を、これから皆さんと一緒につくっていきたいと思っていますので、地域の皆様もご協力いただきますよう、よろしく申し上げます。

会 長 議事で盛り上がりまして、この時点で1時間40分弱ほど経過しています。皆様がよろしければ、議事の方は閉じさせていただきまして、「その他」の方に入らせていただきたいのですが、よろしいでしょうか。

会 長 ありがとうございます。本日の議事は以上となります。

以上